（財）大阪府埋蔵文化財協会調査報告書　第70輯

軽部池西遺跡Ⅲ

都市計画道路大阪・岸和田・南海線建設に伴う発掘調査報告書

1 9 9 1

財団法人　大阪府埋蔵文化財協会

（財）大阪府埋蔵文化財協会調査報告書　第70輯

かるべいけにし
軽部池西遺跡Ⅲ

都市計画道路大阪・岸和田・南海線建設に伴う発掘調査報告書

1991

財団法人　大阪府埋蔵文化財協会

序　　文

軽部池西遺跡は、岸和田市今木町にあります。この一帯は、今木廃寺、今木遺跡、山ノ内遺跡など多くの遺跡が集中しており、主要地方道岸和田牛滝貝塚線などの調査でそれぞれの遺跡の内容が明らかにされてきています。

今回の調査は、主要地方道大阪岸和田南海線の建設にともなって行われたものです。調査区のすぐ東側は、和泉市となって行政区が異なっているため、小田遺跡と呼ばれていますが、本来は、今木遺跡をはじめ近接しているこれらの遺跡は、一連のものと考えるべきものです。発掘調査の結果でも、これまでの調査で予測されていた縄文時代の河川などが確認されています。

今回の調査は当初、今木遺跡として実施しましたが、調査区の所在地が厳密には、大阪府の遺跡分布図の上で、軽部池西遺跡の範囲に属しているため、本書では「軽部池遺跡Ⅲ」として報告することにいたしました。本書の調査成果が、この地域の歴史の解明の一助になれば幸いです。

本調査を実施するにあたって、岸和田市教育委員会、大阪府教育委員会、地元自治会をはじめとする関係者各位に多くのご支援とご協力を賜り、深く感謝をしております。今後とも当協会の事業に変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成３年８月

財団法人　大阪府埋蔵文化財協会
理事長　仁賀奈　祐　吉

例　　言

1．本書は、都市計画道路大阪・岸和田・南海線建設に伴う、岸和田市今木町所在の軽部池西遺跡発掘調査報告書第Ⅲ冊である。

2．発掘調査に伴う機械掘削等請負工事及び写真測量委託の遺跡名は「今木遺跡（その３）」であったが、大阪府文化財分布図によると「軽部池西遺跡」であるため本調査が当遺跡の３次目に当たるということで遺跡名を『軽部池西遺跡Ⅲ』として報告した。

3．調査は、大阪府土木部より委託を受け、大阪府教育委員会の指導のもと、財団法人大阪府埋蔵文化財協会が実施した。

4．現地における調査は、調査課第１班班長　西口陽一（６月まで)、技師　亀田　学を担当者として1991年６月12日から８月27日まで実施した。

5．調査の実施にあたっては、大阪府岸和田土木事務所、岸和田市教育委員会、今木町自治会他地元諸氏には、格別の配慮を得た。現地調査および遺物整理にあたり、山本　彰、大野　薫、宮野淳一各氏（いずれも大阪府教育委員会）には有益な助言・教示を賜った。記して感謝する。

6．本書に記載する平面図の位置は、国土座標第Ⅵ系の値をkm単位で表示した。方位は座標北を示す。標高は、東京湾平均海面（Ｔ．Ｐ．）をｍ単位で表示した。

7．本書の執筆・編集は、亀田　学が行った。

8．遺物の写真撮影、焼き付け等は、小倉　勝氏の手を煩わした。

本　文　目　次

第Ⅰ章　調査の経過と方法……1
　第１節　調査の経過……1
　第２節　調査の方法……1

第Ⅱ章　遺跡の環境……3

第Ⅲ章　調査の成果……6
　第１節　基本層序……6
　第２節　弥生時代の遺構……6
　第３節　縄文時代の遺構……8
　第４節　出土遺物……12

第Ⅳ章　まとめ……15

挿　図　目　次

第１図　調査地位置図……ii
第２図　縄文・弥生時代主要遺跡地図……2
第３図　南西壁柱状土層図……6
第４図　弥生時代遺構配置図……7
第５図　土坑１（04－ＯＯ）平面・断面図……7
第６図　縄文時代遺構配置図……９～10
第７図　01－ＯＲ断面図……11
第８図　10－ＯＲ断面図……11
第９図　10－ＯＲ出土縄文土器……13
第10図　出土土器……14
第11図　出土石器……14
第12図　調査地周辺自然流路検出遺構配置図……15
　表１　第２図範囲内　縄文時代地名表……4

図　版　目　次

図版１　ａ　調査地遠景航空写真　　ｂ　調査地全景航空写真

図版２　a　弥生時代遺構面（北東から）　　b　弥生時代土坑（北から）

図版３　a　縄文時代遺構面全景（西から）　　b　縄文時代遺構面（北東から）

図版４　a　自然流路１（01－ＯＲ）全景（北西から）

　　b　自然流路２（10－ＯＲ）全景（北西から）

図版５　a　北西壁断面　　b　自然流路１（01－ＯＲ）（西から）

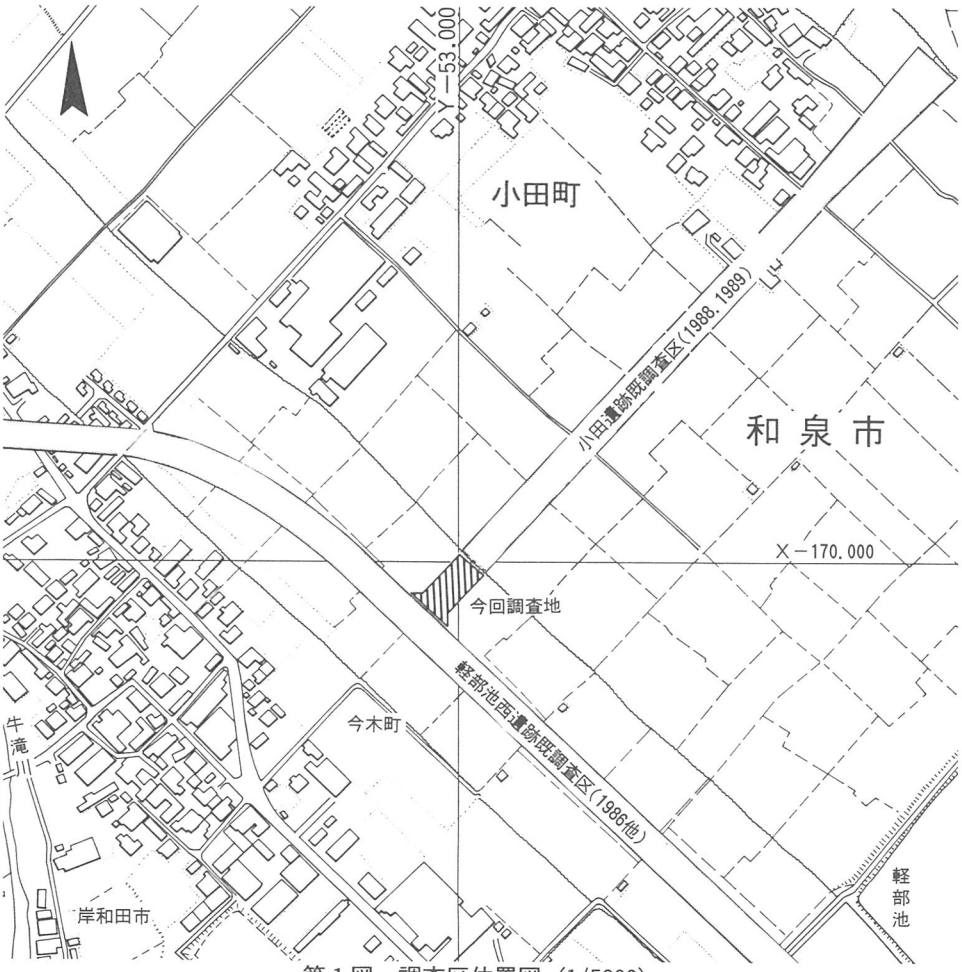
　　c　自然流路２（10－ＯＲ）（東から）　d　自然流路２出土自然木（南から）

　　e　自然流路２　南側　　f　自然流路２　北側

図版６　a　自然流路２（10－ＯＲ）出土縄文土器

　　b　出土石器

図版７　a　包含層出土土器　　b　自然流路出土種子類（トチ、ドングリ他）



第１図　調査区位置図（1/5000）

第Ⅰ章　調査の経過と方法

第１節　調査の経過

都市計画道路は、岸和田南海線泉州地域を南北に縦断する府道大阪和泉泉南線のバイパスの一部として計画された。そのうち、槇尾川以南については和気遺跡の範囲内であったために1985年度に大阪府教育委員会が発掘調査を行っていた。更に松尾川以南については遺跡の範囲外であったが、1987年度に大阪府教育委員会により試掘調査行い和泉市の部分を小田遺跡と認定され、当協会が関西国際空港関連事業の一環として発掘調査を1988年度より２年度にわたり本調査を行ってきた。

この度、都市計画道路大阪・岸和田・南海線が府道岸和田牛滝山貝塚線（都市計画道路磯ノ上山直線）に接続する岸和田市域部分の建設が計画された。この地域は大阪府文化財地図によると軽部池西遺跡の範囲内であるため、岸和田土木事務所と大阪府教育委員会の協議の結果、当協会が小田遺跡に引き続き調査することになった。そのため、発掘調査の６月初めに準備工を行い、現地調査は６月12日より８月27日まで行った。

第２節　調査の方法

軽部池西遺跡や小田遺跡で自然流路が検出されており、今回の調査でも自然流路の続きが検出される事が予想されたため、調査に入る前に調査区に隣接する水田部分と府道岸和田牛滝山貝塚線部分の３方について綱矢板を打ち調査を行った。掘削土は北西に接する水田の一部を借地し、借り置きをして調査後埋め戻しを行った。

遺物の取り上げは、当協会が定めている座標系に従い、４ｍメッシュで行った。遺構番号は通し番号とし、その後に遺構の種類の略号を付属した。略号は当協会で用いているもので、本報告書で関係するものを挙げておくと、土坑はＯＯ、ピットはＯＰ、自然流路はＯＲである。

側溝により層を確認しながら、掘削を行った。検出した面は２面である。上面は、遺構のある部分にメッシュによる手実測を行い、下面については、ヘリコプターにより航空測量を行った。さらに下層を確認するために、側溝以外に10－ＯＲの部分にトレンチを入れ確認調査をして調査を終了した。

第２図　縄文・弥生時代主要遺跡地図

第II章　遺跡の環境

岸和田市は、大阪府の南西部に位置する。北東部は大阪湾に面し、南は和泉山脈を隔てて和歌山県に接する。北は忠岡町、東は和泉市、西は貝塚市と隣り合っている。軽部池西遺跡は岸和田市今木町に所在する。和泉山脈を水源とする牛滝川、松尾川が合流する南側の低位段丘面に立地している。

当遺跡周辺の縄文時代の遺跡の分布は、３つのタイプの立地に分かれると言われる。まず、天の川や春木川の下流の砂丘上に位置する春木八幡山遺跡や加守三昧山遺跡などの標高10m未満に位置するもので、春木八幡山遺跡は、中期から晩期までの土器を出土している。第２のタイプは、低位段丘から中位段丘にかけて立地するものである。中期の土器を出土する箕土路遺跡、自然流路内などから後期の土器を出土する小田遺跡、後期から晩期にかけての土器・黒燿石製の石器・石器製作時のチップが出土した山ノ内遺跡、後期の土坑・埋甕が発見された万町北遺跡、土面や中期末から後期にかけての住居跡、土坑が検出された仏並遺跡などがある。最後のタイプは南に位置する葛城山頂にいたる場所に位置するもので標高500mの山頂でも中期から後期の土器が出土している。軽部池西遺跡は、小田遺跡と一連の遺跡群と考えて良いと思われる。これまで両遺跡では顕著な遺構は確認されておらないが、縄文時代と思われる自然流路を何条か検出している。

和泉地方の弥生時代の集落は、前期中葉から始まる石津川水系の四ツ池遺跡で幕を開ける。大津川水系の池上遺跡は、やや遅れて出現する。中期になるとそれら拠点集落の周辺にも小規模な集落が点在し始める。牛滝川もしくは松尾川水系に属する軽部池西遺跡もこうした集落の１つと考えられ、これまで中期の竪穴住居跡や後期の土器などを検出している。周辺には中期後半の和気遺跡、後期まで存続する田治米菅原遺跡・山ノ内遺跡などがある。和気遺跡では、土坑の底に榛を敷いた特殊な遺構も確認された。山直中遺跡では土器のみであるが、中期のものが存在する。後期になると拠点集落であった四ツ池遺跡や池上遺跡が解体を始め、いわゆる「高地性集落」と呼ばれる観音寺山遺跡に大規模な集落が営まれる。後期まで存続する中期より存続する遺跡は観音寺山遺跡を営んでいた共同体と深く結び付いていた可能性も考えられる。終末期の集落は、和気遺跡で竪穴住居跡や掘立柱建物、西大路遺跡でも集落が確認されている。

表１　第２図範囲内　縄文時代地名表

岸和田市

番号	遺跡名	所在地	早	前	中	後	晩	種類	内容
1	春木天の川	戎町				●	●	散在地	土器
2	西山	岡山町						散在地	石鏃・石錐・石匙
3	琴山	尾生町						散在地	石鏃
4	三本松下	葛城町						散在地	石鏃
5	上松仏谷尾	上松町						散在地	石鏃
6	荒子	上松町						散在地	
7	加守三昧山	加守町						散在地	石匙
8	栄の池	小松里町						包含地	石鏃・石棒
9	下池田	下池田町	○					包含地	有茎尖頭器
10	下松狐塚	下松町						散在地	石棒
11	葛城山頂	塔原町			●	●		散在地	土器・石器・石錘
12	尾崎	真上町						散在地	石鏃
13	箕土路	箕土路町			●			包含地	土器
14	宮本町	宮本町						散在地	石器
15	春木八幡山	八幡町			●	●	●	包含地	土器・石鏃・石錘
16	軽部池西	今木町	○		●	●	●	集落跡	有茎尖頭器・土坑・石棒・磨斧
17	芝ノ垣外	稲葉						包含地	石鏃・刃器
18	山直中	山直中町				●	●	包含地	土坑・土器・石鏃・石錘・石匙
19	三田	三田町	○					包含地	有茎尖頭器
20	山ノ内	田治米				●	●	集落跡	土坑・土器・石器・土偶
21	上フジ	三田町						包含地	刃器
22	二俣池北	包近町						包含地	石鏃・石匙・刃器

和泉市

23	府中	府中町・伯方町				●	●	包含地	土器・石器
24	万町北	万町				●	●	集落跡	土器・石器
25	唐国	唐国町						包含地	石鏃
26	仏並	仏並	●		●	●	●	集落跡	住居跡・土坑・土器・土面・石器
27	和気	和気町					●	包含地	土器
28	池上曽根	池上町					●	包含地	土器・磨斧
29	伯方北	伯方町			●	●	●	集落跡	
30	大園	葛の葉町	○					包含地	有茎尖頭器
31	信田山	小野町			●	●		包含地	土器
32	小田	小田		●	●			包含地	土器
33	福瀬	福瀬町					●	包含地	土坑・ピット・土器・石器
34	池田町	池田下町				●		集落跡	土坑・土器

泉大津市

番号	遺跡名	所在地	早	前	中	後	晩	種類	内容
35	豊中	豊中				●	●	包含地	土器
36	板原	板原			●	●	●	包含地	土器・石器
37	虫取	虫取町				●	●	包含地	土器・石器

堺市

38	鈴の宮	八田寺町					●	集落跡	土坑・土器・石鏃・磨斧
39	四ツ池	浜寺船尾町			●	●	●	集落跡	住居跡（後）・土坑・埋甕・土器
40	船尾西	浜寺船尾町					●	包含地	土器・石棒
41	西浦橋	菱木			●	●	●	集落跡	土坑・土器・石鏃・石錘・刃器
42	平井	平井		●			●	散在地	土器
43	伏尾	伏尾			●			包含地	土器
44	大庭寺	大庭寺					●	集落跡	土坑・土器
45	野々井	野々井	○					包含地	有茎尖頭器
46	百舌鳥陵南	百舌鳥西之町						包含地	石鏃
47	小阪	小阪・平井		●	●	●	●	包含地	土器・石器
48	鴨田池東	鴨田池東					●	包含地	土器・石刀

他　弥生時代主要遺跡など

51　西大路　　52観音寺山　53どぞく　54池浦

注）1　縄文時代地名表については「大阪府縄文時代遺跡一覧表（大阪府立泉北考古資料館　1989　5）」（第7回近畿地方埋蔵文化財研究会資料　1989）の成果による。また、宮野淳一氏の御教示を得た。

2　基本的に遺跡の範囲は大阪府文化財分布図（大阪府教育委員会　1991）によるが、一部25唐国遺跡　30信太山遺跡は、地点で表した。

3　11葛城山頂遺跡　14宮本町遺跡　33福瀬遺跡については地図上の範囲内ではなかったがすぐ隣接地ということで表に入れた。

4　本文の記述にあたっては、以下の本を参照した。

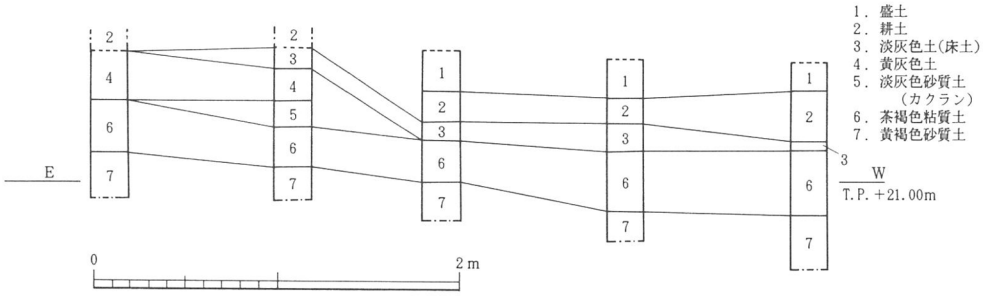
岸和田市史編纂委員会『岸和田市史』第1巻　1979

石部正志『大阪の古墳』松籟社　1980

第Ⅲ章　調査の成果

第１節　基本層序

調査区の調査前の現況は、南東側にある軽部池から水を引き水田化していた。２枚の水田にわたっており、南東から北東に向かって低くなっている。耕土15～20㎝、床土約10㎝、その下が、弥生時代ベース面と思われる茶褐色粘質土が堆積する。さらに、それを除去すると黄褐色砂質土の層にいたる。検出した２つの自然流路は、いずれもこの面で検出した。なお、耕土を除去すると床土が検出されるが、特に南東側の１段高くなった面では明灰色砂を埋土とする深さ20㎝の土坑を検出した。おそらく、粘土採りの穴と思われる。



第３図　南西壁柱状土層図（1/40）

第２節　弥生時代の遺構（第４図、図版二ａ）

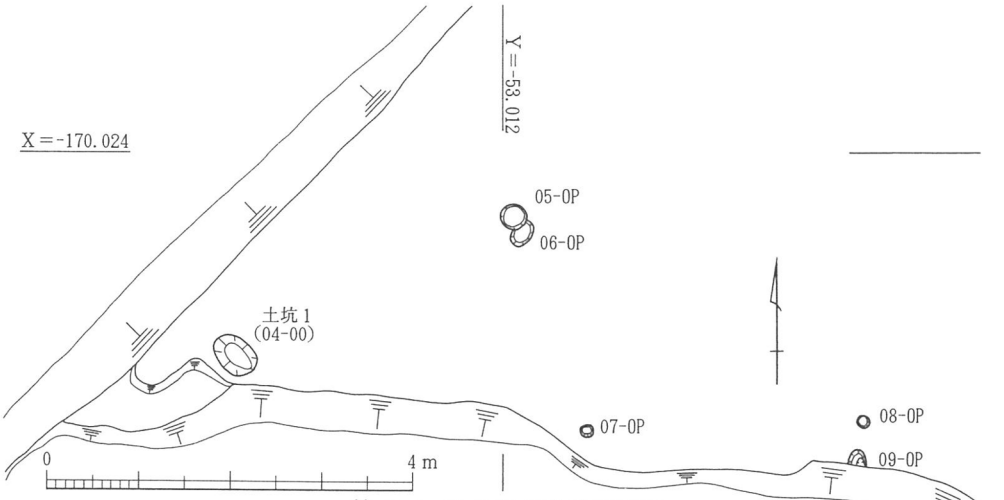
茶褐色砂質土をベース面とする。面的には、後世の削平によって、遺構が削られていると考えられる。１段高い面の粘土採りのあまり及んでいない部分でかろうじて土坑１、ピット５、を検出した。

土坑１（04－ＯＯ）（第５図、図版二ｂ）

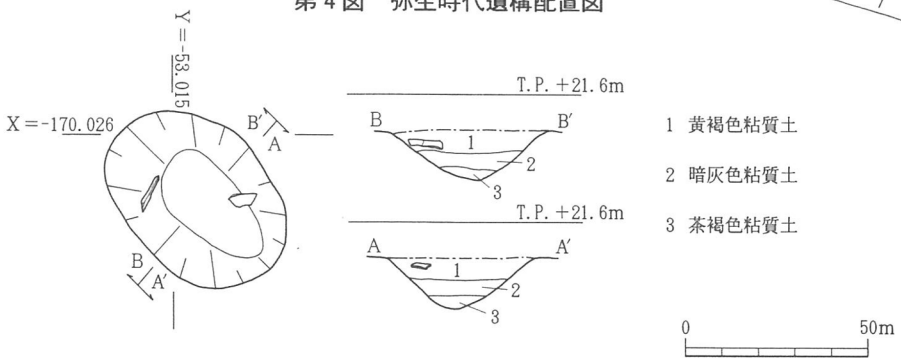
長径54㎝、短径38㎝の楕円形を呈し、深さ15㎝測る。埋土は、３層に分かれる。最上層で甕もしくは壷形土器の細片が出土した。２片出土したが、別個体である。細片であるため、時期は、詳細は不明であるが、検出面に至るまでに出土した土器や撹乱から出土した土器などから考えて弥生中期頃と思われる。

ピット（05－ＯＰ～09－ＯＰ）

05－ＯＰは、径25㎝で深さ18㎝である。埋土は、いずれも黄褐色粘質土である。06－ＯＰは、長径28㎝、短径20㎝深さ８㎝と浅い。05－ＯＰに切られている。07－ＯＰは、１辺12㎝の隅丸方形を呈する。08－ＯＰは、径12㎝で深さは、18㎝である。09－ＯＰは、撹乱で一部を切られており全形は、わからないが、短径18㎝の楕円形と思われる。深さは、15㎝で、深さ８㎝のところで、径が短径10㎝程になり、２段掘り状になっている。埋土は、いずれも黄褐色粘質土である。切り合いから、06－ＯＰ→07－ＯＰの２時期考えられる。時期的には、04－ＯＯとほぼ同時期と考えられる。これらピットの性格としては、竪穴住居などの柱穴などの可能性も指摘できよう。



第４図　弥生時代遺構配置図



第５図　土坑１（04－ＯＯ）平面・断面図（1/20）

第３節　縄文時代の遺構（第８図、図版四）

黄褐色粘質土をベース面とする。人為的な遺構は検出されなかったが、自然流路２条を検出した。

01－ＯＲ（第６図、図版四ａ・五ａ）

調査区の北東隅に位置する。小田遺跡第２次調査ａ・ｂ調査区で検出された065－ＯＲの続きである。また、軽部池西遺跡の第１次調査で検出された589－ＯＲの続きでもある。南から北に流れていたと考えられている。深さ80㎝程検出された。

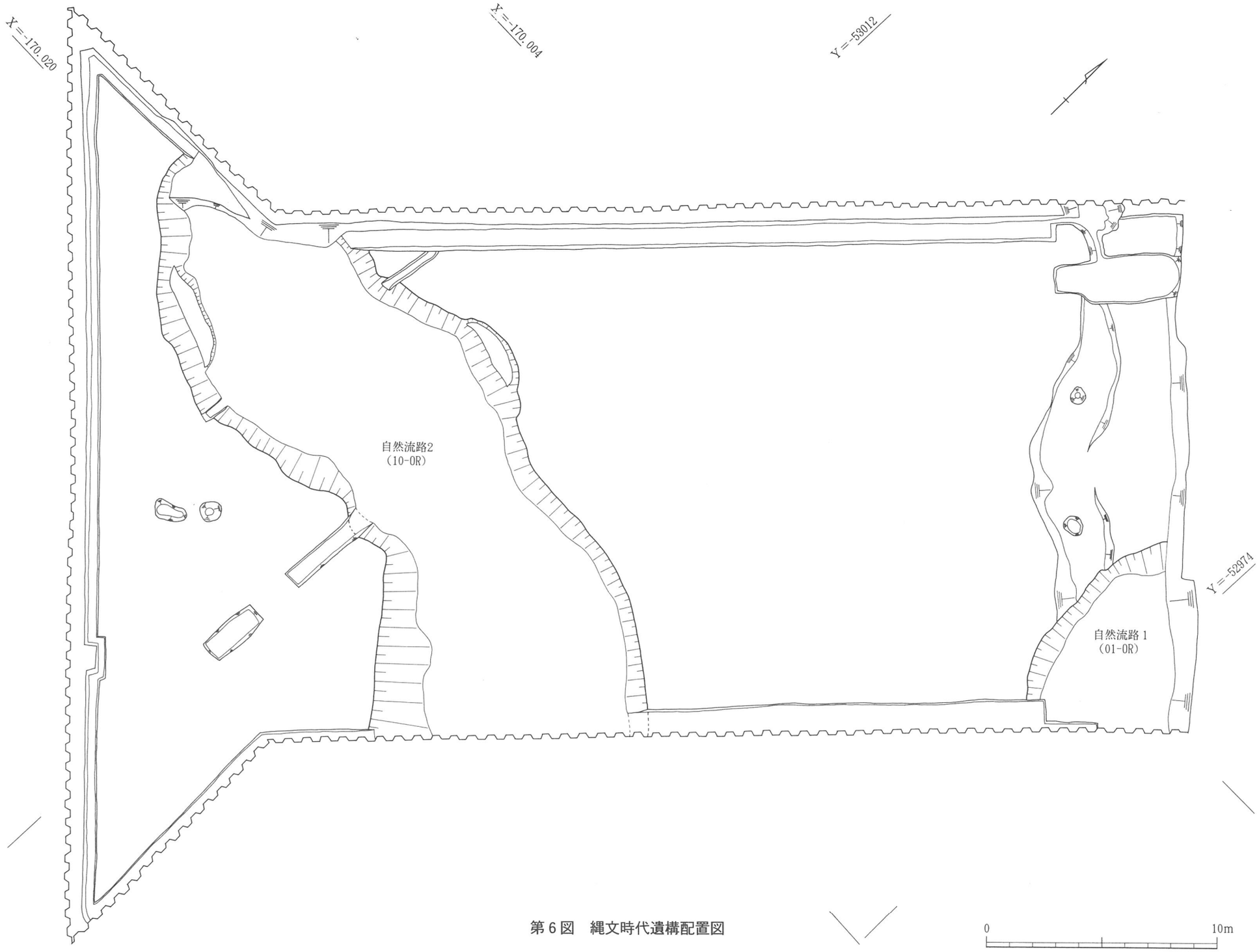
埋土の上層は、一様に25～40㎝の灰色粘土が堆積しており、中層は、黒色・灰色・黄色砂や砂質土が入り混じり堆積している。この層の特に黒色の粗砂からトチの実などの植物が検出された。下層は、部分的に異なるが、砂礫層と粗砂層が約20㎝程の厚さで堆積している。このような堆積状態から、ある時期（中層が埋没した時期）に砂層で川が一時に埋まり、流路の機能が、失われた跡に水たまり状になり粘土が堆積したことが伺える。

10－ＯＲ（第７図、図版四ｂ・五ｂ～ｆ）

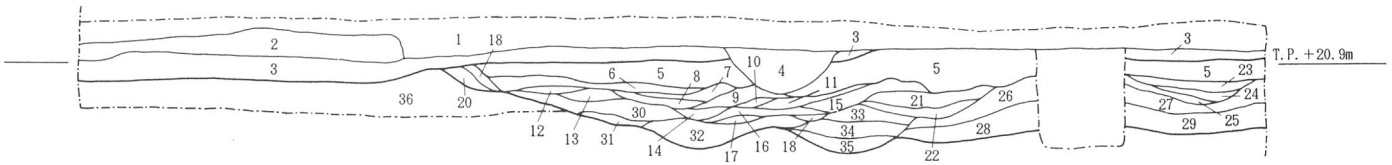
調査区の南半に位置する。幅10～12ｍで、深さ1.3ｍ程である。なだらかにＳ字状に屈曲している。流路の方法は、北西から南東に流れていたと推定できる。

検出した状況では、埋土の上層の砂礫層が隆起していた。中層は細砂と粗砂が薄く入り混じり堆積している。中層では、有機質を含む層があり、ドングリなど植物の種子が多数含まれていた。下層も砂礫層細砂の堆積であるが、中層に比べて安定した堆積状態を示す。

なお、平面的には検出していないが、ほぼ、同じ位置で、やや広い幅で、自然流路があったようで、特に調査区の東部分では、縄文時代面より、２ｍ以上掘削しても砂礫が続くようである。

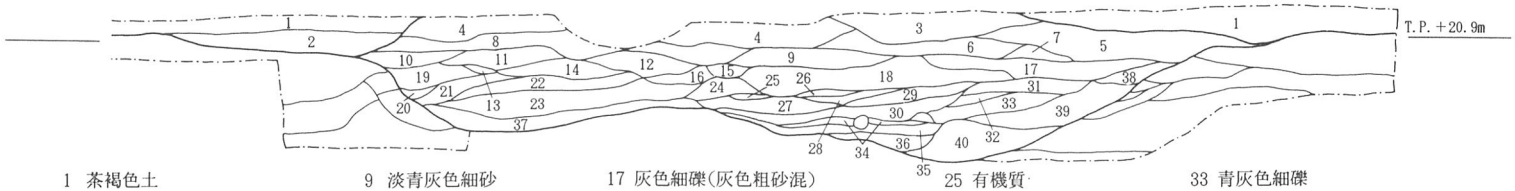


第6図　縄文時代遺構配置図



1 盛土
2 黄橙色粘質土
3 茶褐色土
4 青灰色粘土(10cmぐらいの礫)〔カクラン〕
5 灰色粘質土(上層)
6 暗黒灰色粘質土(スミ混)
7 黒色砂質土(木混)
8 黒色砂(木混)
9 淡灰色砂
10 灰色砂
11 黒色砂(木混)
12 黒色粘質土
13 淡黄色砂
14 淡灰色砂
15 淡黄灰色砂(青灰色礫混)
16 淡灰色細砂
17 黒色粘質土(木混)
18 淡青灰色砂
19 青灰色砂質土
20 黄色混青灰色粘質土
21 黒色砂(木混)
22 淡灰色砂(黄色砂混)
23 淡黄色砂(黒色土混)
24 白色砂
25 青灰色砂(黒色混)
26 黄色砂(淡灰色砂・木混)
27 黄色砂
28 青灰色細礫
29 淡青灰色細砂
30 淡黄色細礫(灰色砂ブロック混)
31 暗黒灰色砂質土
32 青灰色細礫
33 青灰色砂(黒色砂混)
34 黒色砂
35 黒色粘質土
36 黄褐色砂質土

第７図　01－ＯＲ断面図（1/80）



1 茶褐色土
2 黄褐色砂質土
3 黄褐色細礫まじり土
4 灰色細礫まじり土
5 黄色混灰色細礫土
6 暗灰色細礫
7 暗灰色粗砂
8 淡灰色砂
9 淡青灰色細砂
10 黄褐色粗砂
11 淡黄褐色砂
12 淡灰色砂
13 青灰色粗砂
14 淡灰色細砂
15 青灰色砂
16 淡黄灰色砂
17 灰色細礫(灰色粗砂混)
18 淡青灰色細砂(白色砂混)
19 淡灰色細礫
20 青灰色砂
21 淡青灰色細砂
22 淡灰色砂
23 青灰色細砂
24 淡黄灰色砂
25 有機質
26 灰白色砂
27 淡青灰色細砂
28 淡灰白色粗砂
29 淡灰白色細砂
30 淡灰色細礫
31 黄燈灰色細礫
32 有機質
33 青灰色細礫
34 青灰色細砂
35 暗黒褐色土(有機質混)
36 明青灰色細礫
37 黒褐色細礫
38 黄燈色細礫
39 青灰色細砂(褐色粗砂混)
40 黄色細礫

0　4 m

第８図　10－ＯＲ断面図（1/80）

第４節　出土遺物

10－ＯＲの遺物

土器（第９図－１～４、図版六ａ１～４）

１は深鉢の頸部の破片と思われる。縦方向のＬＲの縄文の施文が残る。内面は丁寧にナデて整形している。縄文時代中期末の北白川Ｃ式に相当すると考えられる。口縁部には横方向の縄文を施文する器形と推定できる。暗褐色を呈す。２は復元径27.0㎝の深鉢形土器である。器壁は0.5㎝程、外面は茶褐色、内面は暗褐色を呈す。口縁部を肥厚させている。外面の口縁端部に指頭なでが残る。頸部外面は、縦方向に指でなでて調整を行っている。内面は口縁端部に沈線を施すが条痕が残る。胎土は、やや粗い砂粒を多く含む。縄文中期末～後期初頭と思われ、福田ＫⅡ式～北白川上層式に相当すると考えられる。淡黄褐色を呈す。３は復元口径23.6㎝の鉢形土器である。器壁は0.6㎝程で、器面は、やや磨滅している。灰褐色を呈す。頸部にＬＲの縄文を施した後に貝殻による沈線を持つ。沈線は丸く途中で途切れており、全面に直線の沈線ではない。北白川上層式に相当すると考えられる。４は外面に２条の沈線を持つ。内面には、条痕が残る。暗褐色を呈す。

石器（第11図－１、２、図版六ｂ　１、２）

１は裁断図のある石器である。重さ3.64gを計る。２は１個面に細かい不規則な刃部を持つ。スクレイパー（刃器）である。重さ19.91gである。

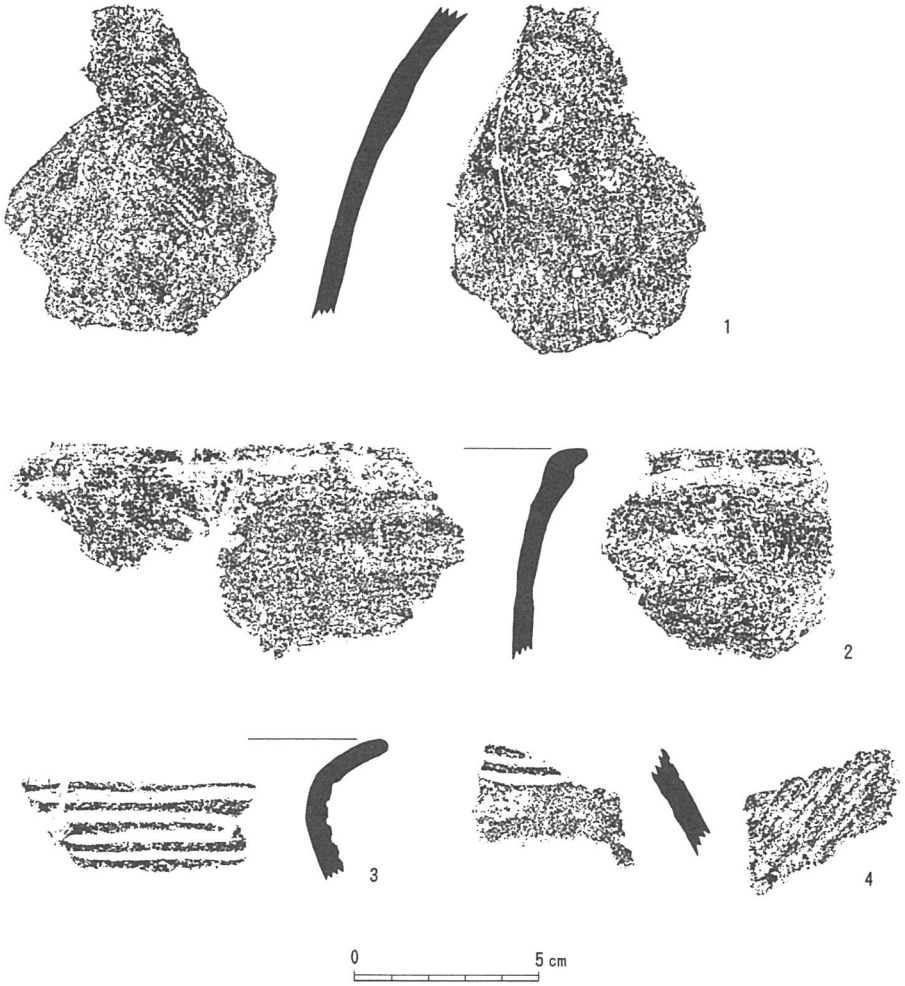
包含層の遺物

土器（第10図－１～３、５～７、図版七ａ－１～６、８）

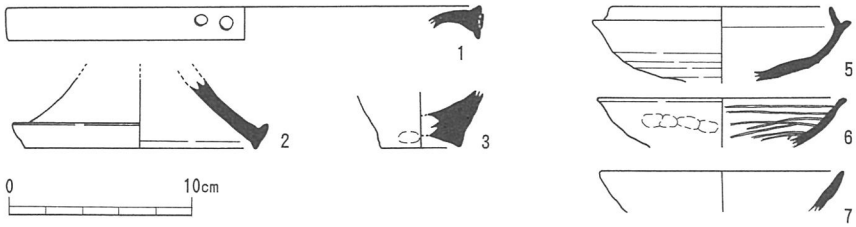
１は復元口径26.0㎝の壷の口縁部である。口縁端部が上下に肥厚する。端面に径0.7㎝の円形浮文を持つ。淡黄褐色を呈する。弥生時代中期のものと思われる。２は高杯の脚部である。底径12.5㎝である。３は壷もしくは甕の底部である。あげ底になっている。淡赤褐色を呈し、長石などの砂粒を多く含む。４は、弥生土器の高杯の脚部である。円盤充塡技法による。淡赤褐色を呈し長石などの砂粒を含む。５は口径12.0㎝の須恵器の杯身である。青灰色を呈する。６は口径13.6㎝の瓦器椀である。外面には、指頭なでを残す。内面にはやや雑な暗文を残す。暗黒灰色を呈す。７は口径13.0㎝の瓦器椀と思われる。表面が磨滅しており、暗灰色を呈する。調整は不明である。８は瓦質の羽釜である。口縁部に４段の段を持つ。淡灰色を呈す。

石器（第11図－３～５、図版六ｂ－３～５）

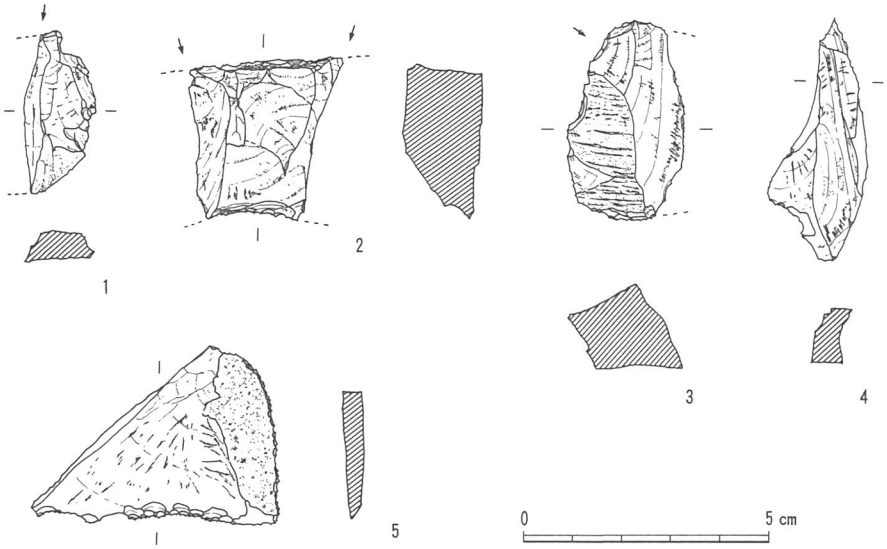
サヌカイト製の製品・剝片が出土した。3は剝片である。重さ14.92gを計る。4は剝片である。重さ6.90gを計る。5は、スクレイパーで2側面に刃部を持つ。重さは8.24gである。サイドスクレイパーとエンドスクレイパーの両方の機能をもつ。1つの刃部は、刃部幅5.0㎝で3.0㎝程は、細かく刃をつけているが、あとは粗く加工している。もう1面は、丸く湾曲しており、磨滅しているが、細かい刃部を作っていると思われる。材質的にすべてサヌカイトと思われるが、「しま石」と呼ばれる羽曳野市の春日山付近で採れるものと推定されるものが交じっている。



第9図　10－ＯＲ出土縄文土器（1/2）



第10図　出土土器（1/4）

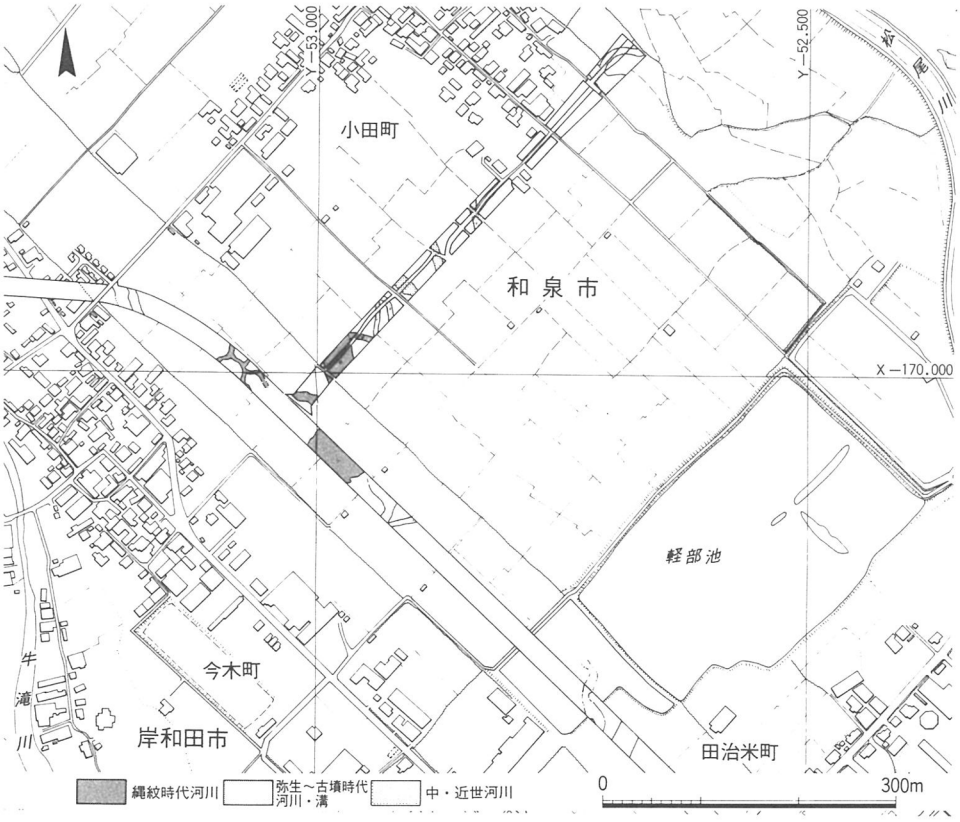


第11図　出土土器（1/2）

第Ⅳ章　まとめ

今回の発掘調査の成果は、主に３点にまとめられる。まず、近年の粘土採りなどで遺構面が削平されているものの、弥生時代の遺構面と思われる面を確認できたことである。包含層やピット内の出土土器などから弥生中期ごろの集落の範囲に属することがわかった。２点目は縄文時代については、小田遺跡や軽部池西遺跡出検出された自然流路の続きが確認され、新たに縄文中期末から後期の土器を出土する新たな自然流路を確認したことである。流路がどう続くかこの調査区の範囲では不明であるが、縄文時代にはかなり流路が変化していることを示唆してくれた。（第12図）

最後に包含層内から少量ではあるが、古墳時代や14～15世紀の土器が出土したことは、この地もしくは周辺に当該期の遺構が存在するか存在したことが指摘できよう。

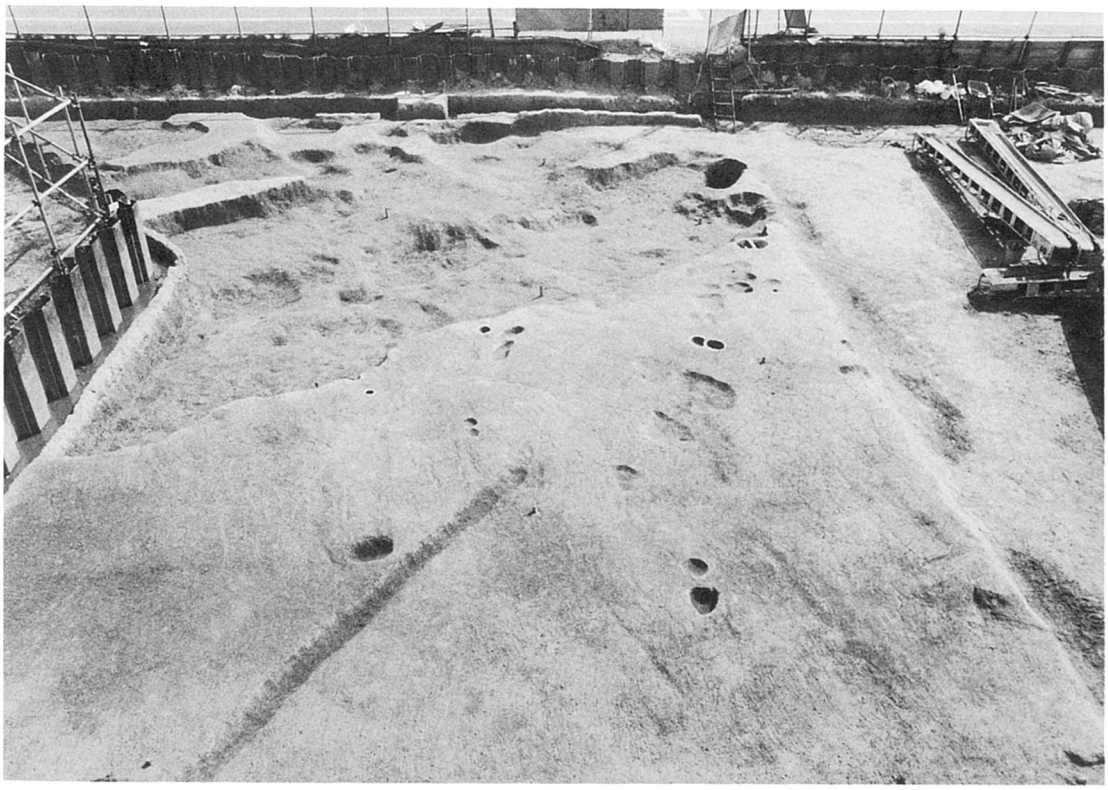


第12図　調査地周辺自然流路検出遺構配置図（1/7500）［小田遺跡1990改変］

図　　版

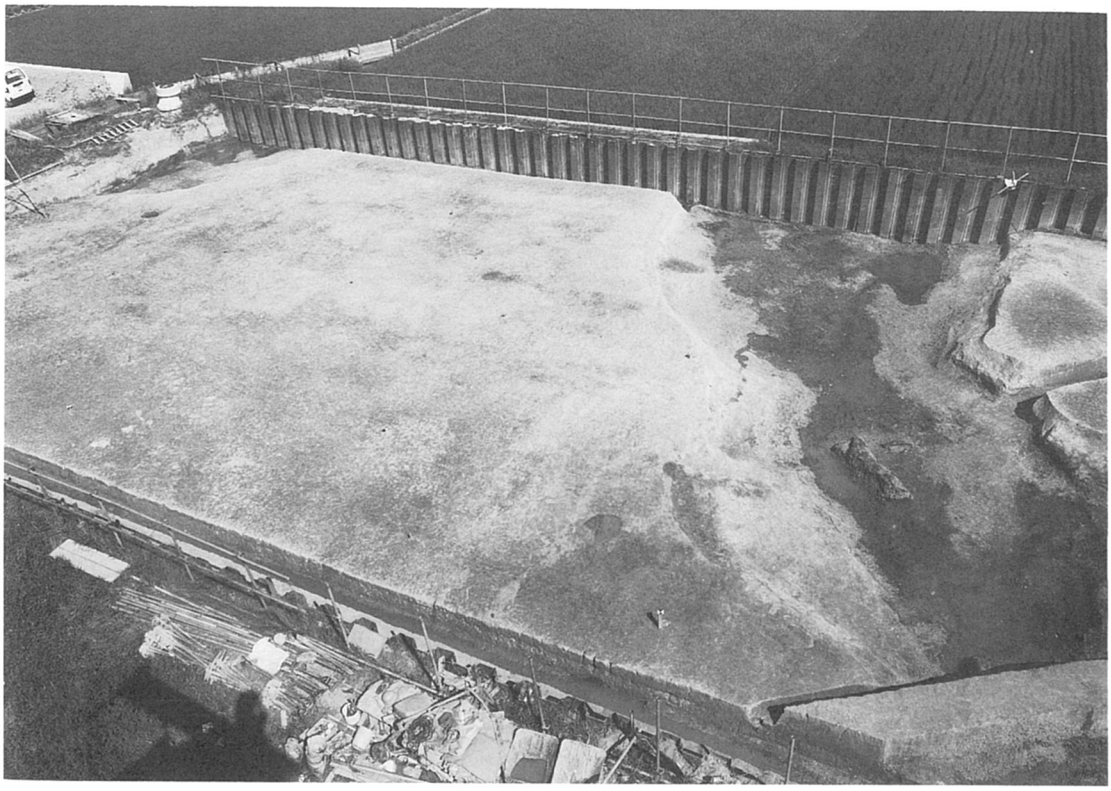
a．調査地遠景航空写真（南西から）

b．調査地全景航空写真（南西から）



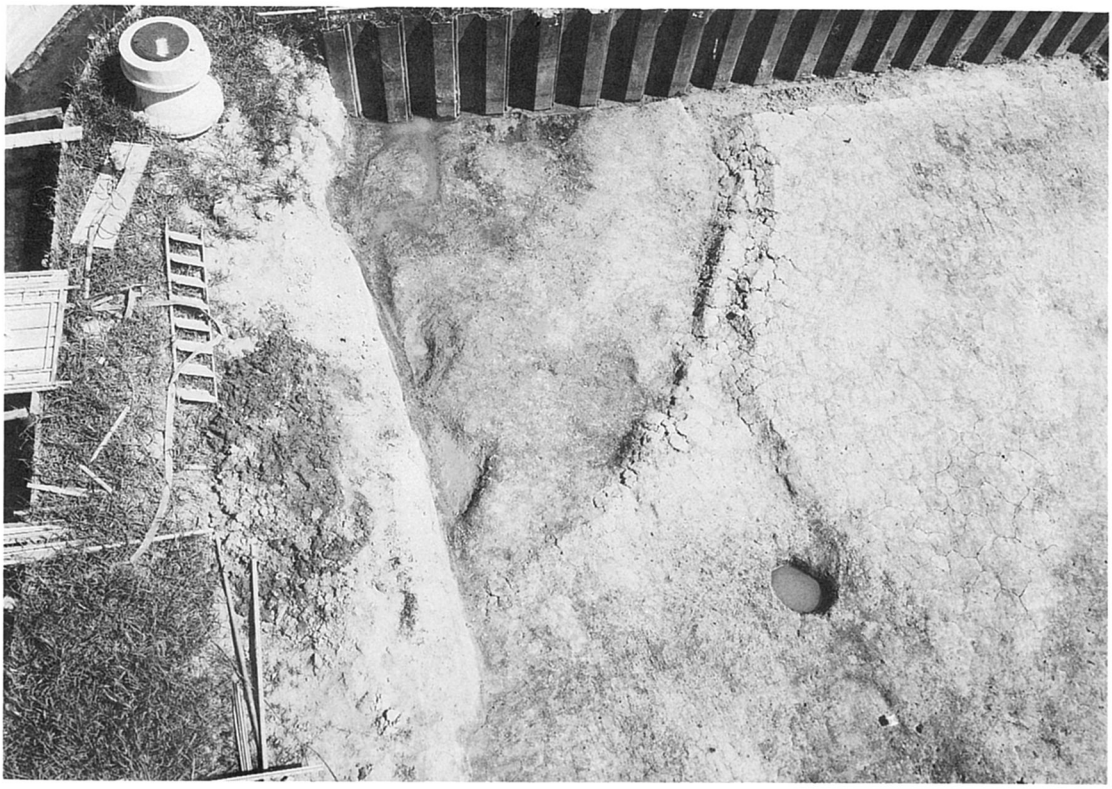
a．弥生時代遺構面（北東から）

b．土坑１（04－ＯＯ）（北から）

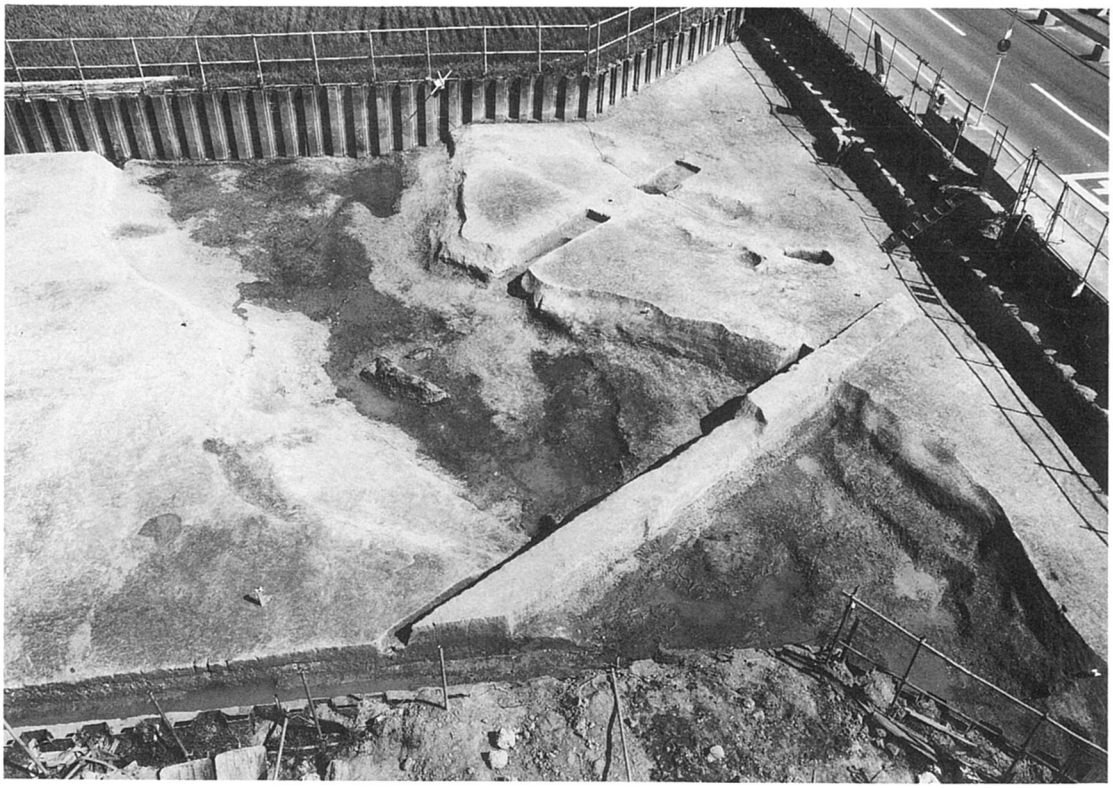


a．縄文時代遺構面全景（西から）

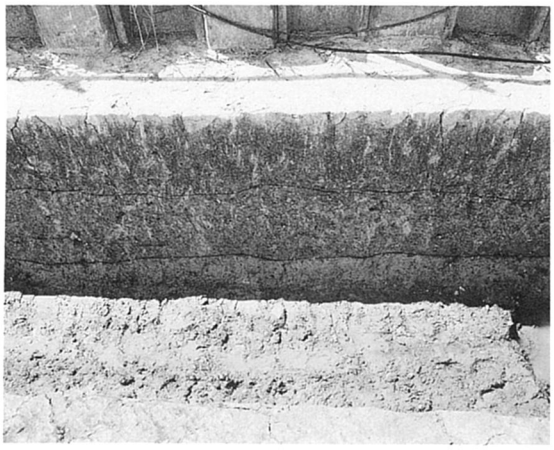
b．縄文時代遺構面全景（北東から）



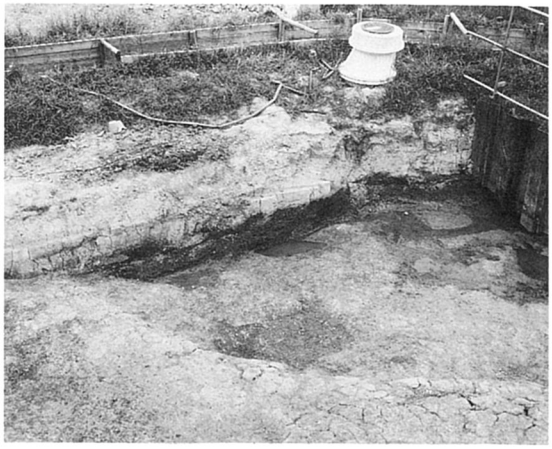
a．自然流路１（01－ＯＲ）（北西から）



b．自然流路２（10－ＯＲ）（北西から）

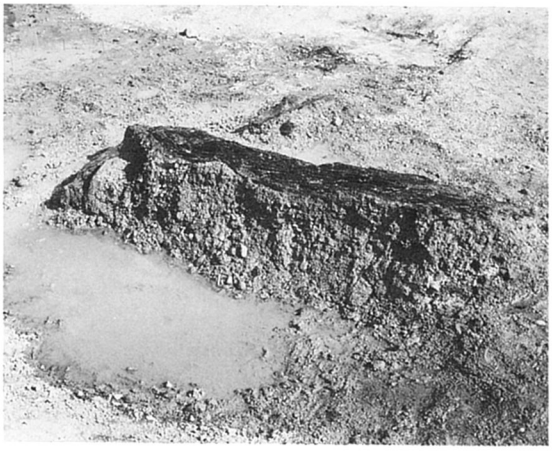


a．北西壁断面

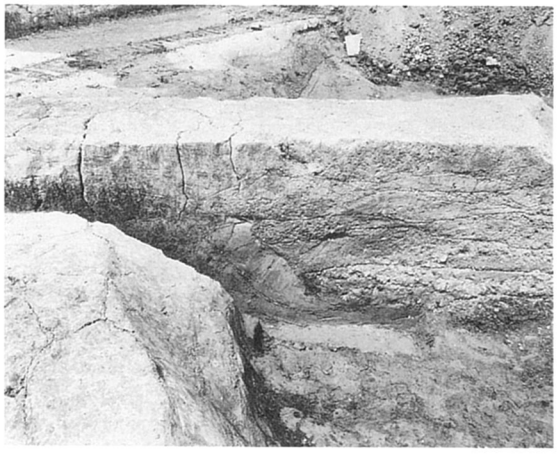


b．自然流路１（01－ＯＲ）（西から）

c．自然流路２（10－ＯＲ）断面（東から）



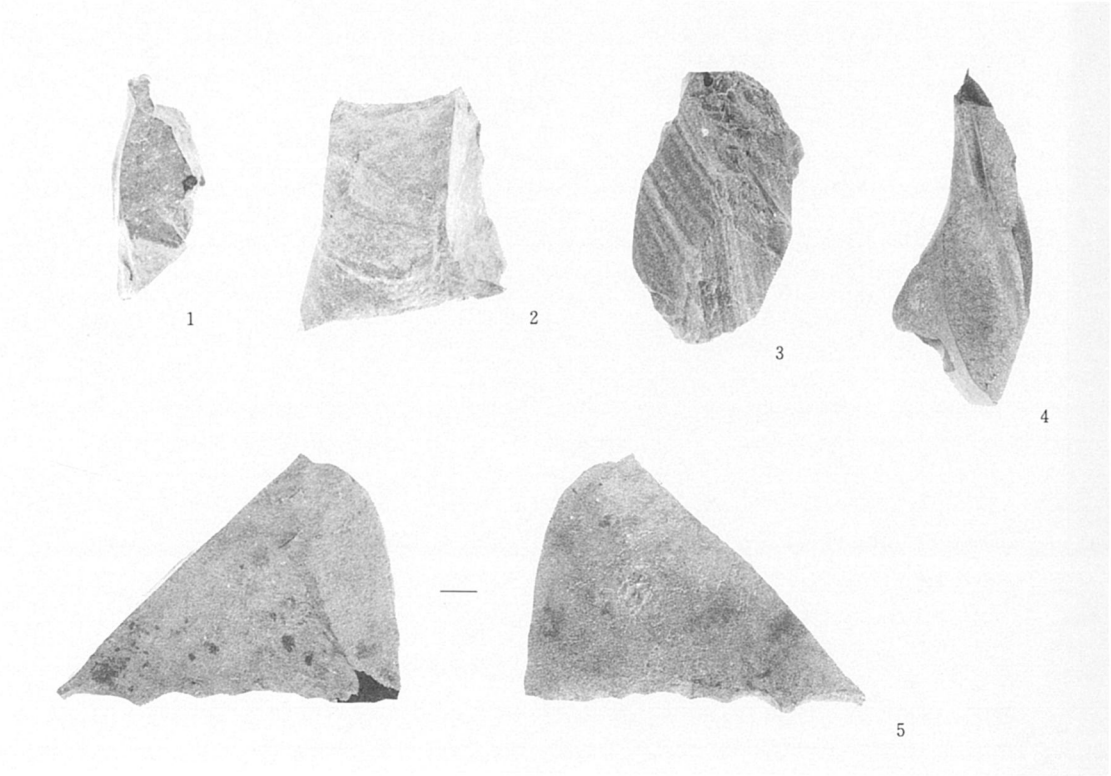
d．自然流路２出土自然木（南から）



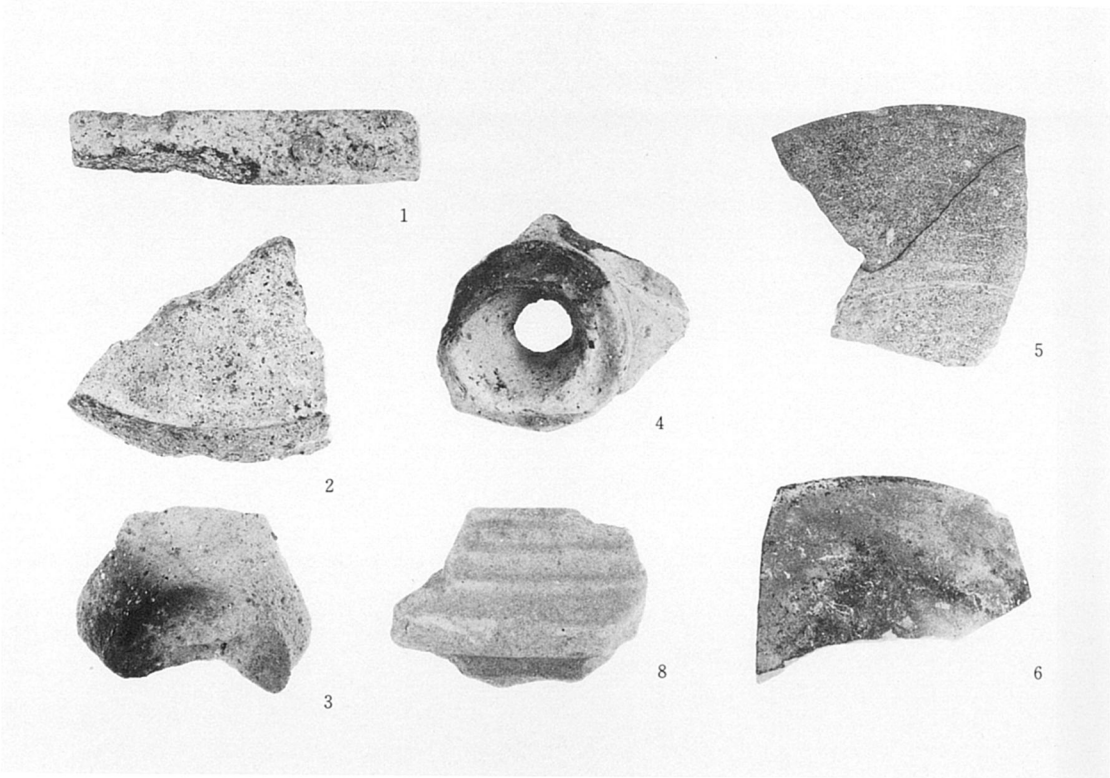
e．自然流路２　南側

f．自然流路２　北側

a．自然流路２（10－ＯＲ）出土縄文土器



b．出土石器



a．包含層出土土器

b．自然流路１（10－ＯＲ）出土種子

c．自然流路２（10－ＯＲ）出土種子

㈶大阪府埋蔵文化財協会調査報告書　第70輯

軽部池西遺跡Ⅲ

都市計画道路大阪・岸和田・南海線建設に伴う発掘調査報告書

平成３年８月31日発行

編集・発行　財団法人　大阪府埋蔵文化財協会
大阪市中央区谷町２丁目２番20号 大手前ウサミビル

印　　刷　株式会社　中島弘文堂印刷所